

滋賀ロケーションオフィス NEWS

第18号

平成23年3月1日発行

Shiga Location Office News

発行:滋賀ロケーションオフィス

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

滋賀県商工観光労働部観光交流局内

TEL:077-528-3745 FAX:077-527-7329

E-mail:info@shiga-location.jp

URL:http://www.shiga-location.jp

サポーター登録者数 2,662人
(平成23年1月末現在)

NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」大好評放送中!!

「江」の滋賀県ロケを終えて

NHKドラマ番組部 チーフ・プロデューサー 屋敷 陽太郎

第1話「湖国の姫」の本放送を終えた直後に、滋賀にお邪魔する機会があった。この番組の企画を立ち上げてから、取材やロケを通じて、どれだけ琵琶湖を見たかわからない。しかし、わずか数週間ぶりに眺めた琵琶湖は、放送前とは全く違ったものを感じられた。

江ゆかりの土地を初めて巡ったとき、「ここを秀吉が歩いた」「ここで信長は〇〇した」と滋賀の方々にご案内いただいた。あくまでも、視点は秀吉や信長だった。

『江』を契機に、「ここで市は長政と恋に落ちたのかも」「江は、この道を逃げたのでは」といったフレーズも語られるようになるならば、大変嬉しいことだ。

何も変わらぬ同じ土地でありながら、ドラマによってそこに新しい視点加わる。同じ街角が、同じ道が、これまでとは異なった物語をもつようになる。だが、それは何もドラマが勝手に作ったわけではなく、土地そのものの魅力がもつエネルギーと共鳴して生み出された“物語”なのだと思える。

そして、人はその“物語”に浸り、“物語”を旅するためにドラマゆかりの土地を訪れるのだろう。

放送後の琵琶湖を眺めて私が感じた「違い」は、私自身もすでに、『江』と琵琶湖が生み出した“物語”に、すっかり入り込んでしまっている証拠なのかもしれない。



屋敷 陽太郎

プロフィール

1970年富山県水見市生まれ。
93年京都大学法学部卒。同年NHKに入局し、主にドラマ制作に携わる。
主な担当ドラマ番組は大河ドラマ『新選組!』『篤姫』、連続テレビ小説『私の青空』、特集ドラマ『クライマーズ・ハイ』、土曜ドラマ『マチベン』など。
2011年大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』では制作統括を務める。

ここで質問です!!

Q1

第1話で長政(時任三郎さん)がお輿入れしたお市(鈴木保奈美さん)に琵琶の海を見せるシーンは長浜市の小谷城跡の桜馬場でロケが行われました。ドラマの舞台と歴史の舞台が同じという滋賀県としては非常にありがたいことでした。この撮影では、写真のようにグリーンのパネルを設置してCG(コンピューターグラフィック)合成ができるように撮影されていますが、ここから見る琵琶湖とドラマで見る琵琶湖は少し異なっています。どこが異なっているのでしょうか?



Q2

第1話で長政がお市に「朝倉殿に、恩に報いようと思う」と告げる、すなわち信長を裏切ると告白するシーンは東近江市五個荘石馬寺町の六所神社でロケが行われました。重たいシーンですが、かわらけ(灯明)が灯る幻想的な雰囲気の中、とても美しく撮影されています。ある美術スタッフは「今回の滋賀県ロケで一番美術の仕込みが大変だった撮影は六所神社」と言われていました。さて、撮影のため準備された「かわらけ(灯明)」の数はいくつでしょうか?



Q3

第2話で信長に招待され、三姉妹が初めて琵琶湖を眺めて歓声をあげるシーンは近江八幡市安土町にある「信長の館」でロケが行われました。ドラマの中で安土城の天守から三姉妹が眺める琵琶湖の風景は、実は伊勢田チーフ・ディレクターが一番美しい景色だと判断された琵琶湖の景色をある建物の屋上から別撮りし、CGを駆使してはめ込まれています。沢山の候補の中から伊勢田さんが選ばれた撮影場所はどこの建物の屋上でしょうか?



→ 答えは背表紙にあります。

【「江」他のロケ地はこちらです】 松の浦水泳場、安楽律院、湖南アルプス天神川(大津市)／甲南町田園道、甲南町林道(甲賀市)／伊崎寺(近江八幡市)／西明寺(甲良町)／彦根城(彦根市)／知内浜、深溝湖岸、白鬚浜(高島市)

映画「SP 革命篇」県庁ロケに潜入!!

公開日 平成23年3月12日(土)より全国ロードショー

監督 波多野貴文 配給 東宝

出演者 岡田准一 香川照之/真木よう子/松尾諭 神尾佑 山本圭/堤真一

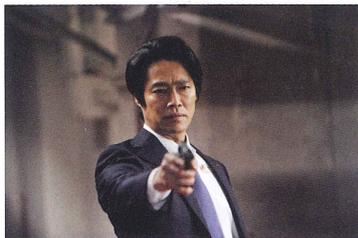
ストーリー 20年前の「惨劇の広場」まで遡る、謎に包まれた尾形の「野望」。そして、井上の「願い」。政権の長として権力を握る麻田総理、その座を狙う幹事長・伊達。警察内部に深く潜む影、強固な官僚国家を目指す若き策略家たち、力によってシステムを変えようと画策するテロリスト。命をかけて職務を全うする第四係のSPたち。様々な思惑が、大きなうねりとなって重なりあう…。



映画「SP 革命篇」は、昨年の2月に滋賀県庁、滋賀県議会棟を使って一週間にわたって撮影が行われました。今回はその撮影風景をご紹介します。今回の滋賀県での撮影ポイントは主に次の3カ所です。

県庁地下通路

主に井上(岡田准一)とテロリスト中里とのアクションシーンや、尾形(堤真一)が麻田首相(山本圭)を追いつめるシーンが撮影されています。



特に井上と中里とのアクションシーンは必見で、二人の死闘は撮影現場にも緊張感を与えていました。アクションシーンは現場で動きを確認しながら作っていくため、早朝から深夜まで、時間をかけて撮影されました。主演の岡田准一さんは撮影の度に毎回モニターチェックをしながら撮影をごなされました。

©2011「SP」プロジェクトチーム

県庁正面玄関

主に要人が国会に入っていくシーンや、テロリストが国会を占拠するシーンが撮影されています。



県庁での撮影現場を激励するため、嘉田知事が波多野監督に花束を贈呈されました。ちなみに、昨年は県庁が建てられて70年という節目の年でした。

©2011「SP」プロジェクトチーム

県議会棟

主にテロリストが国会の記者入り口を通り抜けるシーンや、テロリストが衆議院棟を封鎖するシーンが撮影されています。



1週間に渡る長期ロケで、アクションシーンも盛りだくさんです!県庁舎の歴史を感じさせる趣のある外観や、中央階段にある美しいステンドグラスなどが撮影に使われています。ぜひ劇場でご覧ください!

映画「SP」パネル展を県庁本館1F県民サロンにて2/28~3/31(予定)まで開催します。滋賀県ロケのスクール写真が満載!!ぜひお越しください。

これから公開予定の注目作品も滋賀で撮影が行われました

映画「プリンセス トヨトミ」

公開日 平成23年5月28日(土)より全国ロードショー

監督 鈴木雅之 配給 東宝
出演者 堤真一 綾瀬はるか 岡田将生・中井貴一

ストーリー

このことは誰も知らない。7月8日の金曜日、午後4時のことである。大阪が全停止した。通常の街としての営業活動、商業活動は停止。地下鉄、バス等の公共交通機関も運転をやめた。四百年に渡って封印されてきた扉を開ける重要な「鍵」となったのは、東京からやって来た会計検査院の三人の調査官と、大阪の商店街に生まれ育った二人の少年少女だった…。

ロケメント

皆さん、映画の公式ホームページをご覧ください。特報の動画に見覚えのある城が登場します。どこかおわかりでしょうか？実はこの城での合戦シーン、彦根城で撮影が行われたのです。この映画は現代劇なのですが、四百年前のシーンがいくつか出てきます。そのシーンのほとんどが滋賀県で撮影されました。堤さんの撮影初日は大津市にある芙蓉園本館でしたが、第一声が「現代劇だと思っていたのに」でした。彦根城での合戦シーンでは、滋賀ロケのエキストラさん約40人にご参加いただき、真夏の太陽が照りしきる中、重い甲冑を着て何度も何度も走っていただきました。制作側で連れて来られたエキストラさんは何人か熱中症でダウンされていましたが、タフな滋賀ロケのエキストラさんは最後までダウンすることなく演じていただきました。この他、県立成人病センターでは病室でのシーンが撮影されました。

原作者の万城目学さんは、琵琶湖・湖東地方を舞台にした長編小説「偉大なる、しゅららぼん」を「小説すばる」に連載中です。こちらもぜひご覧ください！



©2011 フジテレビジョン 関西テレビ放送 東宝



映画「忍たま乱太郎」

公開日 平成23年7月23日(土)より全国ロードショー

監督 三池崇史 配給 ワーナー・ブラザーズ映画
主演 加藤清史郎

ストーリー

時は戦国時代。三流忍者の家に生まれた乱太郎は、エリート忍者になってほしいという両親の期待を胸に忍者学園に入学する。そこにはしんべエやきり丸がいた。忍者学園の生徒たちは忍者のたまご「忍たま」と呼ばれ、ちょっと変わった先生や、かわいくノーマちとともに楽しい学園生活を送っていた。しかし、乱太郎たち3人組は、授業も試験もドジばかり、いつもなぜかロクでもないことになってしまうのだが…。NHKでの放送19年の国民的アニメがいよいよ実写映画化！主人公の乱太郎役は日本一忙しい小学生、加藤清史郎さんです。ぜひご注目を！

ロケメント

県内では延べ7日間、6カ所で撮影がありました。ロケ地は観音寺城跡(近江八幡市)、旧山中牧場・菅山寺(長浜市)、葛川茅葺きの家(大津市)ほか。忍者学園・校庭の設定の観音寺城跡では、忍たまたちが先生から手裏剣の投げ方を教えてもらうシーンの撮影がありました。また、旧山中牧場には乱太郎の実家のセットが生まれ、乱太郎の父ちゃん、母ちゃんが家の前の畑で働いているシーンなどの撮影がありました。実家のセットも素晴らしいのですが、家の前の畑、実は地元森林組合の方が撮影のために作ってくださったのです。暑い時期でしたので、水やりに何度も足を運んでいただいたり、せっかく植えていただいた野菜が猪に食べられたりと本当にご苦労いただきました。余談ですが、慌ただしい撮影の合間を縫って、加藤さんが熱心に勉強されていたのが印象的でした。アニメ版の映画も3月に公開され、今年は「忍者」が再ブレイクすること間違いなし！滋賀ロケもこの追い風に乗ってワーナーさんと連携して「甲賀忍者のふるさと・滋賀」をPRしていきます。



©2011 実写版「忍たま乱太郎」製作委員会



●●●●●●●●●● 滋賀で撮影ラッシュ!! その他の支援作品はこちら ●●●●●●●●●●

作品名	主なキャスト	放送日/放送局	ロケ地
ドラマスペシャル「松本清張 砂の器」	玉木宏、中谷美紀	平成23年3月12,13日放送/テレビ朝日	甲賀市、豊郷町
ドラマスペシャル「遺恨あり 明治十三年 最後の仇討」	藤原竜也、松下奈緒	平成23年2月26日放送/テレビ朝日	彦根市
木曜ミステリー「ホンボシ」第1話、3話~4話、8話	船越英一郎、高嶋政宏	平成23年1~3月放送/テレビ朝日	大津市、守山市、栗東市
旅番組「遠くへ行きたい(湖北編)」	宮崎美子	平成23年1月16日放送/読売テレビ	長浜市
新春ワイド劇場「戦国疾風伝 二人の軍師」	高橋克典、山本耕史	平成23年1月2日放送/テレビ東京	大津市、高島市、甲賀市

ロケ地情報や裏話は滋賀ロケホームページでチェックしてください→<http://www.shiga-location.jp/news/>

Information

「全国ロケ地フェア2010」に出展しました



昨年10月に東京で開催された「全国ロケ地フェア2010」(東京国際映画祭併設イベント)に出展してきました。この催しはジャパン・フィルムコミッションと観光庁主催のロケ地見本市で、全国のフィルムコミッションが地方ブロック単位でブースを設け、来場される映像制作関係者に対して直接ロケ地のPRや個別相談を受けることができるロケ地誘致イベントです。当日は多くの関係者が訪れ、滋賀ロケも関係者にロケ地の提案を積極的に行った結果、滋賀でのロケを検討いただいている作品もあり一定の成果がありました。

まだまだあった!

滋賀のロケ地

これまであまり撮影されていないロケーションは県内にまだまだあります。

愛荘町・金剛輪寺

湖東三山の一つで、奈良時代(天平13年<741年>)に聖武天皇の勅願で行基が開山した天台宗の古刹です。本堂の大悲閣は鎌倉時代を代表する和様建築で、織田信長の焼き討ちの難を逃れた国宝です。重要文化財の三重塔や国の名勝に指定されている庭園なども趣があり、お地蔵さんが並ぶ参道も特徴的です。戦国時代の時代劇にぴったりのロケーションです。



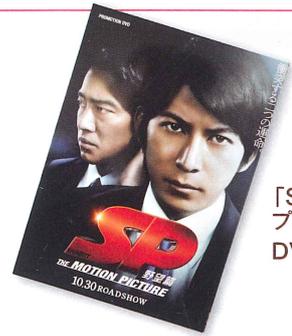
Present SPグッズプレゼント!!

今号の特集で紹介している「SP革命篇」の前編、「SP野望篇」のプロモーションDVDを配給の東宝さんからいただきました。ご応募いただいた方の中から抽選で5名の方にプレゼントいたします。

応募先: ☎520-8577

大津市京町4-1-1 滋賀県商工観光労働部観光交流局内
滋賀ロケーションオフィスあて

応募方法: 官製はがきに①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤今号で注目した記事 をお書きの上、応募先まで郵送してください(〆切は3月末日必着)。官製はがきのみのお受け付けとさせていただきます。発表は発送をもってかえさせていただきます。



「SP野望篇」
プロモーション
DVD 5名様

協賛企業一覧

私たちは、滋賀の素晴らしい風景や文化などを全国に紹介するため、滋賀ロケーションオフィスの活動を支援しています。

(H22年度協賛企業 敬称略・順不同)

滋賀県興行協会 滋賀県信用保証協会 びわ湖放送(株) (株)滋賀銀行 (株)関西アーバン銀行 NTT西日本滋賀支店
琵琶湖汽船(株) 大津プリンスホテル 琵琶湖グランドホテル ひこねステーションホテル 北ビワコホテルグライツエ
白浜荘 長浜ロイヤルホテル (株)TMオフィス (株)中央精器滋賀支店 (株)井筒屋 ランチサービスポポロ (株)南洋軒
(株)大門 (株)トヨタレンタリース滋賀 滋賀建機(株) 光交通(株)

サポーター から一言

7年ほど前に信楽町を舞台にした映画「火火」の撮影があり、息子夫婦と孫がエキストラをしました。その映画にとっても感動し、私も参加したいと思い、夫婦でサポーターになりました。昨年9月に甲南町で行われたNHK大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」ロケで、農民役で参加させていただきました。現地入りした時、東京からの人たちが稲穂の黄金色に感嘆の声を上げられた様子を見て、見慣れている景色の美しさに改めて気付かされました。新春から始まった「江」は、自分が参加したドラマを観る楽しみもさることながら、時代を越えて映像になった風景は、また違った印象や、四季折々の新たな魅力が感じられたりします。その上、撮影スタッフの方に、弁当のご飯が美味しくて、近江米ときれいな水のためものだと言われていただき、とても嬉しく誇りに思いました。

私はよく旅行に出かけますが、出会った人たちにドラマや映画のロケ地のことを話しています。これからも、「関西へ来られたらぜひ滋賀県へも来てね」と我が県を自慢していきたいと思っています。

滋賀ロケ・サポーター 間宮晴美

編集後記

県外出身の私ですが、滋賀県を表現する好きな言葉があります。近江商人の商売理念「売り手よし、買い手よし、世間よし」という考え方は「三方よし」。滋賀ロケも制作会社には納得いく映像が撮れる場所や機会を提案でき、サポーターさんにはエキストラを楽しんでいただき、さらには滋賀の魅力を広く発信できて地元が盛り上がりげれば嬉しいなあと思い、目標でした。時には力不足でご迷惑をおかけし、それでもロケ現場で、またお電話などで、サポーターのみなさんには温かい言葉をかけていただくことが多く、大変励みになりました。これからも滋賀の知られざる魅力、芸達者な楽しいみなさんの活躍がたくさん見られますように…。3年間お世話になりました。ありがとうございました。そしてこれからも滋賀ロケをよろしく願います。

(滋賀LOスタッフ M.T)